

「緊急時対応組織の実効性の向上に係る試行における評価の考え方」に対する訓練設定について（ドラフト）

支援組織との連携訓練内容（案）	九州電力	北陸電力
訓練内容	シナリオ情報を含むため非開示	
連携組織		

「緊急時対応組織の実効性の向上に係る試行における評価の考え方」（緊急事案対策室）	事業者解釈 (今年度、訓練試行を実施するにあたっての考え方)	九州電力	北陸電力
1. 計画段階（Plan）における評価			
<p>①実発災時に予め原子力事業者防災業務計画に定められた活動が網羅的に実施されるよう、訓練の中期計画及び年度計画が策定され、計画的に訓練に参加する組織の範囲、目的及び実動訓練の内容等が選定されているか</p>	<p>複数年かけて連携対象組織が網羅的になるよう、中期計画を策定する必要がある。 また、後方支援拠点運営訓練等の個別連携訓練について、単年度で全てを検証することが難しい場合は、中期計画にて活動を網羅的に実施する方針を示すことで、場面を切り取った訓練を実施しても良い。 訓練の目的（向上させたい能力）に応じて、事業者防災訓練のほかに、机上演習や要素訓練で実施しても良い。 なお、対象とする組織の範囲は社外組織に留まらず、社内のP P部門等のこれまでの防災訓練にて連携してこなかった組織や、緊対所への給電等の発電所本部及び即応センター以外での拠点で活動する組織を含む広範囲なものを指す。（活動の網羅性を重視する指標であるため、過去実績のない連携内容である必要がある。また、一通りの連携訓練をした後は、至近で実績のない連携内容を選択することで、偏りがないよう配慮する必要がある。）</p> <p>確認事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中期計画の作成や課題管理等の訓練PDCAに関する事項は、現行指標とラップする部分があると考え、その部分は、重複を避けるため現行指標の中に包含されるものとして（指標5、11）。 ・支援組織との連携は、多くの箇所（組織、拠点）との対応を行っており、全ての評価を事業者間で実施するのは困難であるため、事業者が選定した代表的な支援組織との連携訓練を1、2項目程度ターゲットにすることとしたい。 	<p>今年度は、試行段階であるため、次年度以降に評価の考え方に沿った、中期計画及び年度計画の策定を計画する。 （試行段階での資料提示なし）</p> <p><今回の対応の考え方></p>	<p>今年度は、試行段階であるため、次年度以降に評価の考え方に沿った、中期計画及び年度計画の策定を計画する。 （試行段階での資料提示なし）</p> <p><今回の考え方></p>
シナリオ情報を含むため非開示			

「緊急時対応組織の実効性の向上に係る試行における評価の考え方」（緊急事案対策室）	事業者解釈 (今年度、訓練試行を実施するにあたっての考え方)	九州電力	北陸電力
②緊急時対応組織の能力向上を目的とした目標が設定されているか	<p>「能力向上」とは、手順通りの対応を実施できることを確認することに加え、課題が抽出できたりするようなシナリオへの対応を指す。(指標 6、7 同様)</p> <p>ただし、指標 6、7 と区別するため、「支援組織との連携」に関する「能力向上のための工夫」をシナリオへ盛り込む必要がある。</p>		
③上記目標の達成基準が設定されているか	<p>手順が存在する場合は手順通りに支障なく実施できることが達成基準となる。手順を超えるような場合や、手順に記載されていない細部に係る事項については、事務局が想定（期待）する必要な行動や連携等を達成基準として訓練前に示す必要がある。</p>		
④上記の達成基準に対して、現状とのギャップを把握し課題が抽出されているか	<p>現状とは、訓練実施前（訓練計画段階）のことを指し、ギャップは主に以下の観点で確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手順の内容とのギャップ有無を確認する。 (手順修正要否、現場対応ノウハウの明文化等に繋げる) ・事務局が想定する必要な行動や連携等の達成基準に対してギャップ有無を確認する。 (事務局が想定した達成基準とプレイヤーの考えをすり合わせた上で、手順化等に繋げる) ・訓練実績の有無を確認する。 (要素訓練で実績はあるが、事業者防災訓練時には実施していない等) 		
⑤実動訓練の参加組織あるいは参加者は、実発災時の活動を想定し、広範囲かつ適切に設定されているか	<ul style="list-style-type: none"> ・実発災時の活動を想定し、訓練の目的を踏まえて関係する組織が漏れないよう連携訓練を実施する。 ・「広範囲」とは、支援組織だけでなく、即応センターや発電所本部などの連携先を含めた範囲を指す。 確認事項 ・参加組織あるいは参加者は、中期計画に基づき複数年度で中規模範囲での組織間連携訓練をやっていき、複数年度で広範囲を網羅することでも良いか。 		
⑥実発災時の活動を想定し、より現実的な実動を伴うシナリオが設定されているか	<ul style="list-style-type: none"> ・「現実的な実動」とは、情報連絡に加え、要員や資機材の派遣や設置、更には訓練要員が実際にそれらの資機材を用いた活動を行うことを言う。 例 ・チェン징エリアの設置だけではなく、実際に人の出入りを行う。 ・LSB で車両等のスクリーニング・除染場の設定だけではなく、実際に運用（運営）する ・電源ケーブルやホースの敷設だけではなく、実際に給電する、貯水槽等へ給水する など ・訓練シナリオと時間軸が合わない場合はスキップや別日に実施でも良い。 確認事項 ・日程調整、中止のリスク、時間軸等を考慮し、事業者防災訓練と別日に要素訓練として実施しても良いか。特に公的機関との日程調整難航の見込み。 ・指標 7 訓練同様、訓練目的に応じて事業者防災訓練と同日で行うか否かお選択可能か。 ・自衛隊など外部機関との連携は、相手側の合意がなくては対応出来ないため、訓練の必要性は認識するものの達成出来ない場合もあることから、対象の訓練について、机上訓練や模擬対応も許容するなど柔軟な対応をお願いしたい。 		

シナリオ情報を含むため非開示

「緊急時対応組織の実効性の向上に係る試行における評価の考え方」（緊急事案対策室）	事業者解釈 (今年度、訓練試行を実施するにあたっての考え方)	九州電力	北陸電力
2. 実施段階（Do）における評価			
①実発災時の活動を想定し、訓練が広範囲にわたる組織間において適切な連携の下、計画通りに実施されたか	<p>・「適切な連携」とは、定められた指揮命令系統に基づき、組織間において手順どおりの対応することを指す。また、手順を超える対応については、事務局が想定（期待）する必要な行動や連携等ができることを指す。</p> <p>具体的には、手順書、体制図、機能班ガイドがある場合は参照して訓練を評価し、手順を超えるような場合や、手順に記載されていない細部に係る事項については、チェックシートにて評価する。</p>	<p>・訓練時に計画と同様の流れで活動（連携）できることを確認する。</p>	<p>・訓練時に計画と同様の流れで活動（連携）できることを確認する。</p>
3. 評価段階（Check）における評価			
<p>①計画された目標の達成基準に基づき適切に評価が行われたか</p> <p>②目標が達成されていない場合、問題点の原因を分析されているか</p> <p>③目標が達成された場合、成功した要因を分析されているか</p>	<p>評価者からのチェックシートや反省会におけるプレーヤー意見、手順書との乖離有無等から訓練事務局が総合的に評価を行い、訓練実施報告書に結果を記載する。</p> <p>プレーヤーへの聞き取り、作成資料の確認、情報共有ツールの入力実績確認、撮影記録での振り返り等により分析を行い、訓練実施報告書に結果を記載する。</p>	<p>左記のとおり、対応を実施する。 （訓練結果を踏まえた対応となるため、事前面談での資料提示なし）</p>	<p>左記のとおり、対応を実施する。 （訓練結果を踏まえた対応となるため、事前面談での資料提示なし）</p>
4. 改善段階（Action）における評価			
①課題の改善が図られている、あるいは、改善に取り組んでいるか	<p>・評価段階（Check）で抽出した課題について、対策を立案できているか。（対策の検証は次回訓練で確認）</p> <p>・成功した要因（良好事例）は、水平展開できるものがないか検討が行われ、水平展開が可能な場合、具体的な対応が立案できているか。</p> <p>・社外組織との連携において、相互検討が必要なため、短期間で解決できない課題が抽出された場合は、対策の検討ができているか。</p>	<p>左記のとおり、対応を実施する。 （訓練結果を踏まえた対応となるため、事前面談での資料提示なし）</p>	<p>左記のとおり、対応を実施する。 （訓練結果を踏まえた対応となるため、事前面談での資料提示なし）</p>